

八瀬川水系のワサビ田跡地の調査報告

亀崎 誠^{*1}・秋山 幸也^{*2}

^{*1} 相模原植物調査会 ^{*2} 相模原市立博物館

1. はじめに

明治から昭和初期にかけて「溝ワサビ」と称して段丘の崖から湧水を利用したワサビ栽培が盛んに行われていた。しかし現在、ワサビ栽培はほとんど行われなくなり、放置されていることからその跡地はかなり荒れているが、段丘斜面の貴重な自然として残っている。今回、八瀬川水系のワサビ田跡地を調査することにより、最盛期にどの程度の面積で栽培を行っていたか、現在の湧水量の状況、ワサビ田跡地内の植物の生育状況を明らかにした。また、わずかに残る当時の栽培者と家族等関係者から栽培当時の聞き取りを行い、栽培時期、栽培を止めた理由などを記録した。

2. 調査地域

八瀬川は田名原段丘面の地下水が陽原段丘面の段丘崖に湧き出して流れになったもので、田名地区の大杉池から下溝地区の三段の滝手前で一級河川相模川に流れ込む延長5.0キロメートルの準用河川である。その段丘崖の湧水を利用してワサビ田が作られてきた。

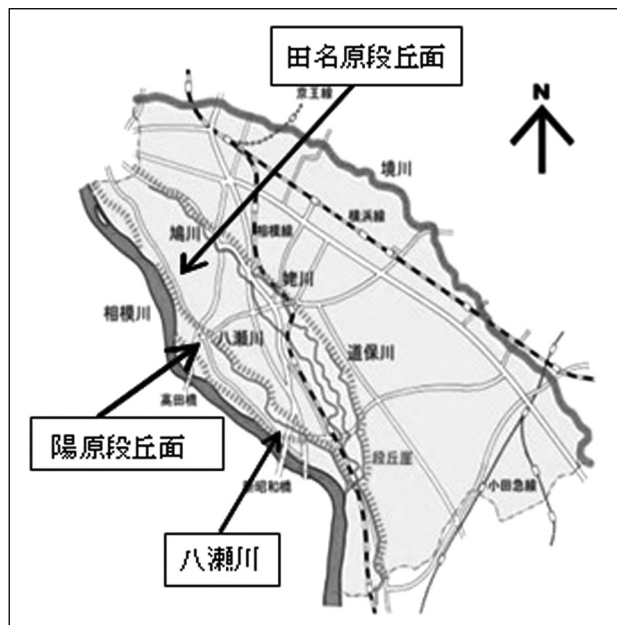


図1. 八瀬川の位置。相模原市環境情報センターのHPより引用改変。

調査地域は八瀬川水系として田名半在家付近から下溝三段の滝までの八瀬川に注ぐ湧水に存在するワサビ田跡地を調査対象とした。

3. 調査方法

(1) 環境

調査地域に存在するワサビ田跡地の大きさを歩測で測定した。ワサビ田跡地を長方形として、1歩を0.65mに換算し、面積を算出した。また、ワサビ田跡地内に生育している維管束植物の種名をリストアップした。湧水状況は「畳石式ワサビ田栽培の必要な標準湧水量は水深1.5～2.0cm 流速毎秒15～20cm」(星谷, 1996)として記載されている。この必要な標準湧水量をAとして、表面が乾いているDまでを以下の4種類に分類した。

- | | | |
|---|--------------|-------|
| A | 水深1.5cm以上、 | |
| | 流速毎秒15cm以上 | 栽培に最適 |
| B | 水深0.5～1.4cm、 | 栽培に適 |
| C | 表面が濡れている程度 | 栽培に不適 |
| D | 表面が乾いている | 栽培に不適 |

水深はメジャーで測定して流速は落ち葉を流した距離と時間から求めた。CとDは外観から分類した。

分類の判定については、ワサビ田跡地全体を代表する平均的な場所のサンプリングで行なった。

(調査地域のワサビ田様式の多くは地沢式と思われるが、地沢式の標準湧水量の記載が文献等になことから、畳石式ワサビ田様式の標準湧水量を参考とした)

(2) 透水性

代表的なワサビ田跡地1ヶ所について透水性を調査した。(計器シリンダーインテグレートに代わり直径約20cmの底を抜いた容器を作土に10cm埋め込み、水を注入して時間当りの減水を測定する)

(3) 聞き取り

主なワサビ田については当時の栽培者から聞き取りにより、栽培方法、栽培時期、栽培者、栽培を止めた理由などを聞き取った。

またわずかに残っていたワサビの株が伊豆原産と思われるので静岡県湯ヶ島伊豆農業研究センターわさび科を訪問して品種の同定を依頼し、現在の伊豆の栽培方法などについて調査した。

(4) 調査期間

2015年11月9日～2016年4月16日

湧水状況は2015年11月12日と2016年1月27、28日の2回行った。但し、八景の棚下の17ヶ所(No19～35)は2016年1月27日の1回のみである。湧水状況は足立(1987)に豊水期より渇水期の湧水量が重要と記載されており、渇水期である1月に実施した。

4. 調査結果

(1) ワサビ田跡地の現在の状況(表1)

ワサビ田跡地は全部で35ヶ所あった(図3～5)。また面積の合計は7,526㎡であった。ワサビ栽培の必要湧水量から4種類に分類した面積の内訳は図2の通りであった。

栽培に最適(A)と適(B)で45.7%、栽培に不適(CとD)は54.3%であった。栽培時はほとんどAかBであったと思われ湧水量の減少が見てとれた。

県道46号線下のワサビ田跡地(No19～35)は栽培不適(CとD)の割合が84.7%(表1)と高い値であった。この要因は県道46号線を含めた崖上の都市化によるものと思われる。

ワサビ田跡内の植物の野草は27種がみられ、その内の多い5種はセキショウ、フキ、ジャノヒゲ、オランダカラシ(クレソン)、セリであった。樹木は8種がみられ、その内の多い5種はキツタ、アオ

キ、シュロ、ノイバラ、ヤツデであった。クレソンは現在も栽培しているものであり、ワサビは栽培中のものと、過去に栽培していたものがわずかに残ったものである。

(2) 聞き取り結果について(表2)

栽培開始時期については、2ヶ所だけ判明したが他は不明であった。栽培終了時期は11ヶ所が判明した。昭和40年以降に終了したものが多く、最後まで栽培している場所でも平成元年までであった。

栽培を止めた理由は湧水量の減少が最も多く、次に価格の下落、ワサビ引取業者からの葉、根茎、根毛の分離要求、水質の悪化、ワサビが腐る病気、盗難であった。

(3) 消滅したワサビ田(表3)

聞き取りにより判明したものだけで10ヶ所あった。

(4) 主なワサビ田跡地9ヶ所について

① 田所春義氏宅ワサビ田跡地(No1)

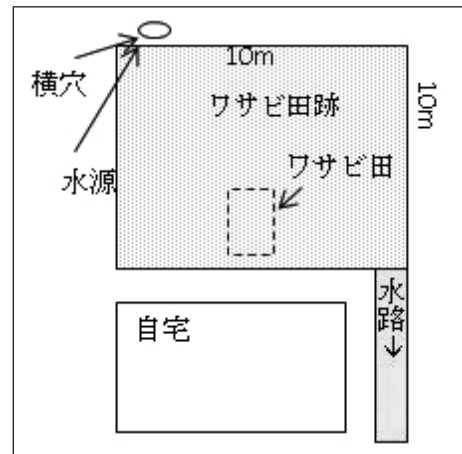


図6. 田所春義氏宅ワサビ田略図

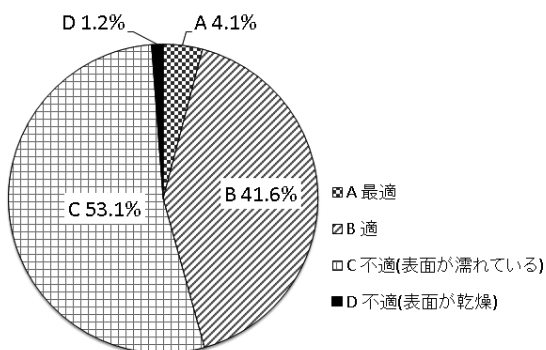


図2. ワサビ栽培必要湧水量(面積比)



写真1. 田所春義氏のワサビ田跡

表1. 八瀬川水系ワサビ田跡地調査表ー1 (1/2)

No	調査場所名	場所 小区分	大きさ (歩数)		大きさ (m)		面積 m ²	湧水状況		ワサビ田跡地内 植物	備考
			幅	長さ	幅	長さ		2015/11/12	2016/1/28		
1	田所春義氏宅裏	①	14	14	9	9	83	2015/11/18 1/2B 1/2C	1/2B 1/2C	ワサビ、フキ、セキショウ、クレソン、セリ	ワサビ栽培を畳2畳程度継続している。
2	田所氏宅庭	①	12	17	8	11	86	2015/11/18 B	B	クレソン、フキ	1部を池にしている。
3	田名団地 登り道路右下	①	7	18	5	12	53	C	C	セキショウ	
4	飯田電子上流側	①	9	26	6	17	99	A	A	セキショウ	倒木あり
		②	5	40	3	26	85	A	A	セキショウ	
		③	9	20	6	13	76	C	C	セキショウ	
5	飯田電子 下流側脇	①	9	60	6	39	228	B	B	セキショウ、ワサビ、フキ、ノイバラ	下側は倒木、ノイバラ繁茂のため荒れている。上側の1部はワサビ栽培中
6	東京濾器下①	①	9	37	6	24	141	B	B	セキショウ、キツタ、ホウライシダ	アブローチ、藪のため困難
7	東京濾器下②	①	25	32	16	21	338	C	C	セキショウ、キツタ、ツリフネソウ、ヒカゲイノコスズチ、セリ、樹木種々	倒木あり、アブローチ、藪のため困難
8	東急建設下	①	実測		9	28	252	B	B	セキショウ、フジ、ヤツデ、キツタ	
		②	実測		9	28	252	C	C	セキショウ	倒木多数
9	塩田壺園下	①	実測		7	11	77	C	C	トクダミ、セキショウ、ヒカゲイノコスズチ	マダケの倒木多数
10	緑化センター裏	①	実測		4	30	120	C	C	セキショウ	ゴミ多数
11	ガン沢奥	①	12	62	8	40	314	C	C	セキショウ	倒木あり、アブローチ藪のため困難
12	ガン沢	①	9	62	6	40	236	B	B	ヒカゲイノコスズチ、フキ、ワサビ、セキショウ、モチノキ、キツタ、ヤツデ、アオキ	栽培当時のワサビがわずかに残っている
		②	12	62	8	40	314	B	B	フキ、ワサビ、セキショウ、アオミズ、キツタ、ツリフネソウ、ヒロハコンロンソウ、ミツリハ、ヤツデ、モチノキ	
13	笈退り	①	13	50	8	33	275	C	C	セキショウ、チヂミザサ、	倒木あり
		②	15	9	10	6	57	C	C	フジ、セキショウ、コセンダングサ、チヂミザサ、ヤブミョウガ	
		③	15	58	10	38	368	B	B	セキショウ、フキ、ヒカゲイノコスズチ、ヒロハコンロンソウ、アオミズ、クレソン	右に水路あり
		④	17	183	11	119	1,314	1/2B 1/2C	1/2B 1/2C	セキショウ、樹木多数	荒れている
14	当麻公園N01	①	5	23	3	15	49	B	B	セキショウ	竹伐採物、多数散乱
15	当麻公園N02	①	15	26	10	17	165	2/3B 1/3D	2/3B 1/3D	セキショウ	
16	料亭飄緑玉上 左側	①	5	30	3	20	63	C	C	セキショウ、キツタ	
17	料亭飄緑玉上	①	6	50	4	33	127	A	A	セキショウ	
		②	8	40	5	26	135	C	C	セキショウ	
		③	20	45	13	29	380	B	B	セキショウ、フキ、キツタ、アオキ、ヒカゲイノコスズチ、ヒロハコンロンソウ、シュロ	
18	相愛病院裏	①	9	16	6	10	61	C	C	セキショウ、キツタ、シダ、ヒカゲイノコスズチ	
小計 (N01～N018)							5,747	湧水状況は両期間とも同様の結果であった。		湧水状況小計(4種類の分類の内訳) ()内面積比 A : 311m ² (5.4%)、 B : 2,862m ² (49.8%) C : 2,576m ² (44.8%)、 D : 0m ² (0%)	
湧水状況			A	水深1.5cm以上		流速毎秒15cm以上		B		水深0.5～1.4cm	
			C	表面が濡れている				D		表面が乾いている	

表1. 八瀬川水系ワサビ田跡地調査表-1 (2/2)

No	調査場所名	場所 小区分	大きさ (歩数)		大きさ (m)		面積 m ²	湧水状況		ワサビ田跡地内 植物	備考
			幅	長さ	幅	長さ		2015/11/12	2016/1/27		
19	県道46号線下-1	①	10	50	7	33	211	－	C	イノモトソウ	上下コンクリート水路、蛇籠設置されている
20	県道46号線下-2	①	6	10	4	7	25	－	C	フキ、セキショウ、アオキ	
21	県道46号線下-3	①	9	40	6	26	152	－	C	ヤブガラシ、セキショウ、ジャノヒゲ、イノモトソウ、ヤツデ、アオキ、シュロ、ノイバラ	倒木、伐採木あり
22	県道46号線下-4	①	20	7	13	5	59	－	C	キツタ、タイアサミ、ノイバラ、ヤブガラシ、セリ、イノモトソウ	
23	県道46号線下-5	①	5	20	3	13	42	－	C	ジャノヒゲ、ヘニシダ、キツタ、アオキ	
24	県道46号線下-6	①	5	28	3	18	59	－	C	フキ、アオキ、シュロ、ジャノヒゲ、キツタ	
25	県道46号線下-7	①	4	12	3	8	20	－	C	セキショウ、アオキ、ジャノヒゲ、シロタモ、セキショウ、シュロ、	
		②	9	12	6	8	46	－	C		
		③	5	12	3	8	25	－	C		
26	県道46号線下-8	①	7	17	5	11	50	－	C	ジャノヒゲ、アオキ	
27	県道46号線下-9	①	13	20	8	13	110	－	C	キツタ、タイアサミ、フキ、ヒカゲノイノコズチ	
28	県道46号線下-10	①	8	32	5	21	108	－	1/2 B 1/2 C	トキワツユクサ、セリ、キツタ、タイアサミ、セリ、ヒカゲノイノコズチ	
29	県道46号線下-11	①	5	30	3	20	63	－	1/2 B 1/2 C	トキワツユクサ、ノイバラ、キツタ	倒木あり
30	県道46号線下-12	①	5	17	3	11	36	－	C	セキショウ	
31	県道46号線下-13	①	9	33	6	21	125	－	C	セキショウ、クレソン、ノイバラ、キツタ、シュロ、アオキ、	
32	県道46号線下-14	①	44	20	29	13	372	－	1/2 B 1/2 C	フキ、タイアサミ、ヨシ、ヒロハコンロンソウ、クレソン	ゴミ多い
		②	5	20	3	13	42	－	C		
33	県道46号線下-15	③	16	15	10	10	101	－	C	セキショウ、キツタ	ゴミ多い、倒木あり
34	県道46号線下-16	①	16	6	10	4	41	－	C	クレソン、セリ、イノモトソウ、ジャノヒゲ	
35	県道46号線下-17	①	7	30	5	20	89	－	D	マダケ	
小計 (NO19～NO35)							1,778			湧水状況小計(4種類の分類の内訳) ()内面積比 A : 0m ² (0.0%)、 B : 272m ² (15.3%) C : 1,418m ² (79.7%)、 D : 89m ² (5.0%)	
計 (NO1～NO35)							7,526			湧水状況計(4種類の分類の内訳) ()内面積比 A : 311m ² (5.4%)、 B : 2,862m ² (49.8%) C : 2,576m ² (44.8%)、 D : 0m ² (0%)	

湧水状況 A 水深1.5cm以上 流速毎秒15cm以上 B 水深0.5～1.4cm
C 表面が濡れている D 表面が乾いている

県道46号線下-1～17のワサビ田跡地内の植物調査の野草については冬期のため調査は不十分であった。

表2. 八瀬川水系ワサビ田跡地調査表ー2 (聞き取り項目)

No	調査場所名	場所 小区分	栽培時期	最終栽培者	栽培を止めた理由	備考
1	田所春義氏宅裏	①	～昭和60年頃	田所春義氏	湧水量減少	現在でも畝2畝程栽培を継続 主にクレソンを栽培
2	田所氏宅庭	①	～平成元年頃	田所勝次氏	湧水量減少	主にクレソンを栽培 一部池にしている。
3	田名団地 登り道路右下	①	-	-	-	
4	飯田電子上流側	①	-	-	-	
		②	-	-	-	
		③	-	-	-	
5	飯田電子下流側脇	①	～平成元年頃	田所勝次氏	湧水量減少	平成2年に田名公民館行事 のワサビ田教室開催、数人 は現在も継続しようである。
6	東京濾器下①	①	-	-	-	
7	東京濾器下②	①	～昭和35年頃	丸崎地区、石井氏	-	
8	東急建設下	①	明治35年～ 昭和40年頃	熊沢フヨ子氏	上段に工場が出来て(昭和42年頃)、水 が汚れ、水量も減り盗難も有った。 ワサビの根茎、葉、根毛の分離を要求さ れるようになり手間が掛かるようになった。 引取り価格も安くなった。	
		②				
9	塩田霊園下	①	昭和49年頃	白井博忠氏	湧水量減少	
10	緑化センター裏	①	-	-	-	-
11	ガン沢奥	①	昭和50年頃	遠藤貞夫氏 石井省二氏	-	
12	ガン沢	①	大正7年 ～昭和60年 (3世代)	遠藤貞夫氏 杉崎隆茂氏 石井正治氏	上段にドライブインが出来て(昭和41.42年) 水量が減った。 ワサビの根茎、葉、根毛の分離を要求さ れるようになり手間が掛かるようになった。 引取り価格も安くなった。	大正7年5月に4名で開墾 (遠藤富蔵、清水亀作、杉崎 甲子助、石井政吉) 昭和32年3月に開墾記念碑 を建立している。
		②				
13	笈退り	①	昭和50年頃	遠藤貞夫氏 石井省二氏	-	
		②	昭和50年頃	遠藤貞夫氏	-	
		③	～昭和60年	遠藤貞夫氏 杉崎隆茂氏 石井正治氏	湧水量減少	
		④	戦前 と思われる。	-	-	無量光寺の土地であり、地 元の人が栽培したとのこと。 ワサビ田跡地は樹木が生い 茂り、荒れている。
14	当麻公園NO1	①	-	-	-	
15	当麻公園NO2	①	～昭和30年	清水ハツ氏	人家による三嶋神社湧水の水質悪化	
16	料亭飄緑玉上左側	①	-	-	-	
17	料亭飄緑玉上	①	～昭和19年	岸田利治氏他 有志7～8人	土が混ざり、ワサビが腐って売り物になら なかった	
		②				
		③				
18	相愛病院裏	①	-	-	-	
19 ～ 35	県道46号線下 1～17	-	戦前 と思われる。	-	湧水量の減少と思われる。	全体的に県道46号線からの ゴミ捨てによりゴミが散乱して いる。 神奈川県農業会が大正13 年に麻溝八景棚の下に試作 地を設け、栽培試験を行っ たが十分な効果を上げるこ となく、3年で中止している。

表 3. 八瀬川水系ワサビ田跡地調査表ー 3 (消滅したワサビ田跡地)

No	場所名	ワサビ栽培 の時期	現在の 土地利用	備考
A	田名5381付近	－	林	土砂で埋め立て
B	田名5414付近	－	駐車場	土砂で埋め立て
C	塩田自治会館付近①	－	塩田自治会館及び消防署	区画整理時に実施
D	塩田自治会館付近②	－	道路	塩田自治会館道路の反対側付近 道路拡張時に埋める
E	さかい橋上流	－	八瀬川土手	区画整理で消滅
F	さかい橋下流	－	八瀬川土手	畑地拡張のため土砂で埋め立て
G	国道129号バイパス付近	－	国道129号バイ パス道路	
H	当麻690付近	－	畑	
I	芹沢三嶋神社下の左側	－	工場	
J	芹沢三嶋神社下の右側	－	畑	

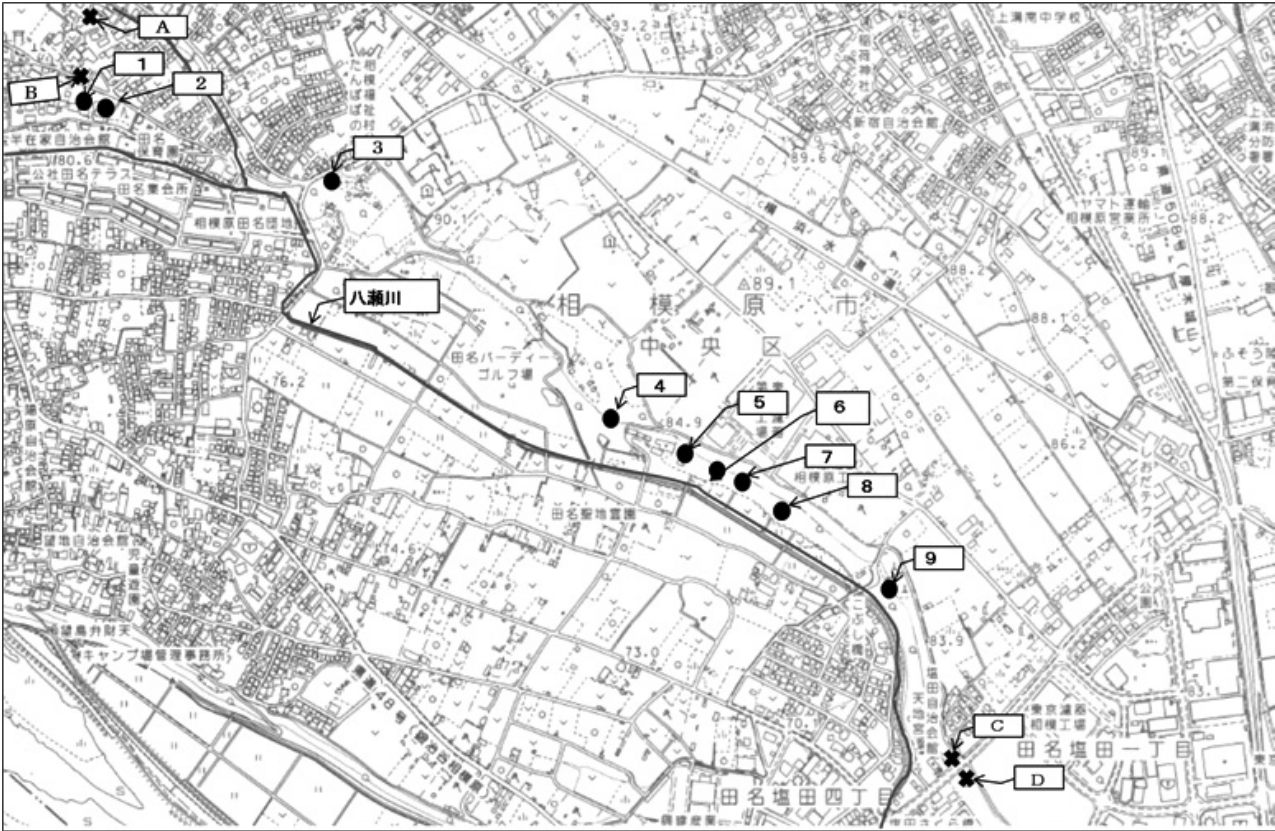


図3. 八瀬川水系ワサビ田跡地位置図ー1（上流）

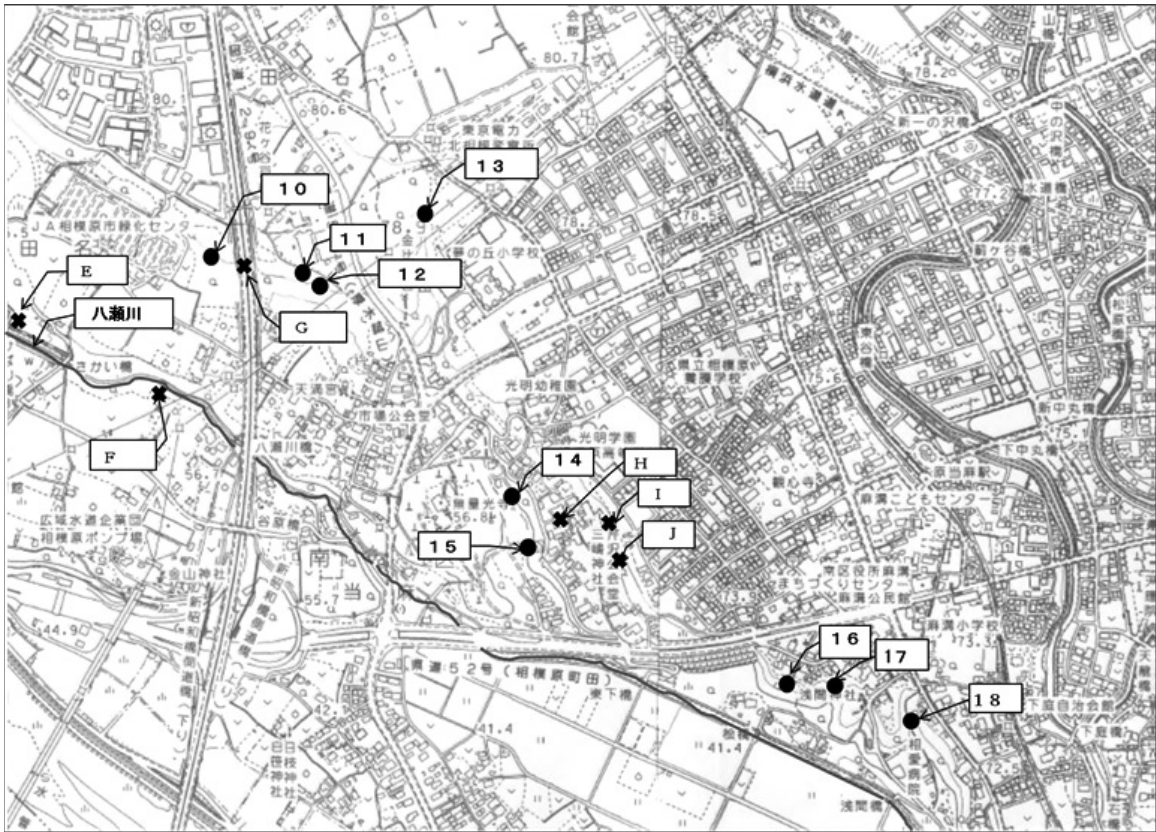


図4. 八瀬川水系ワサビ田跡地位置図ー2（中流）

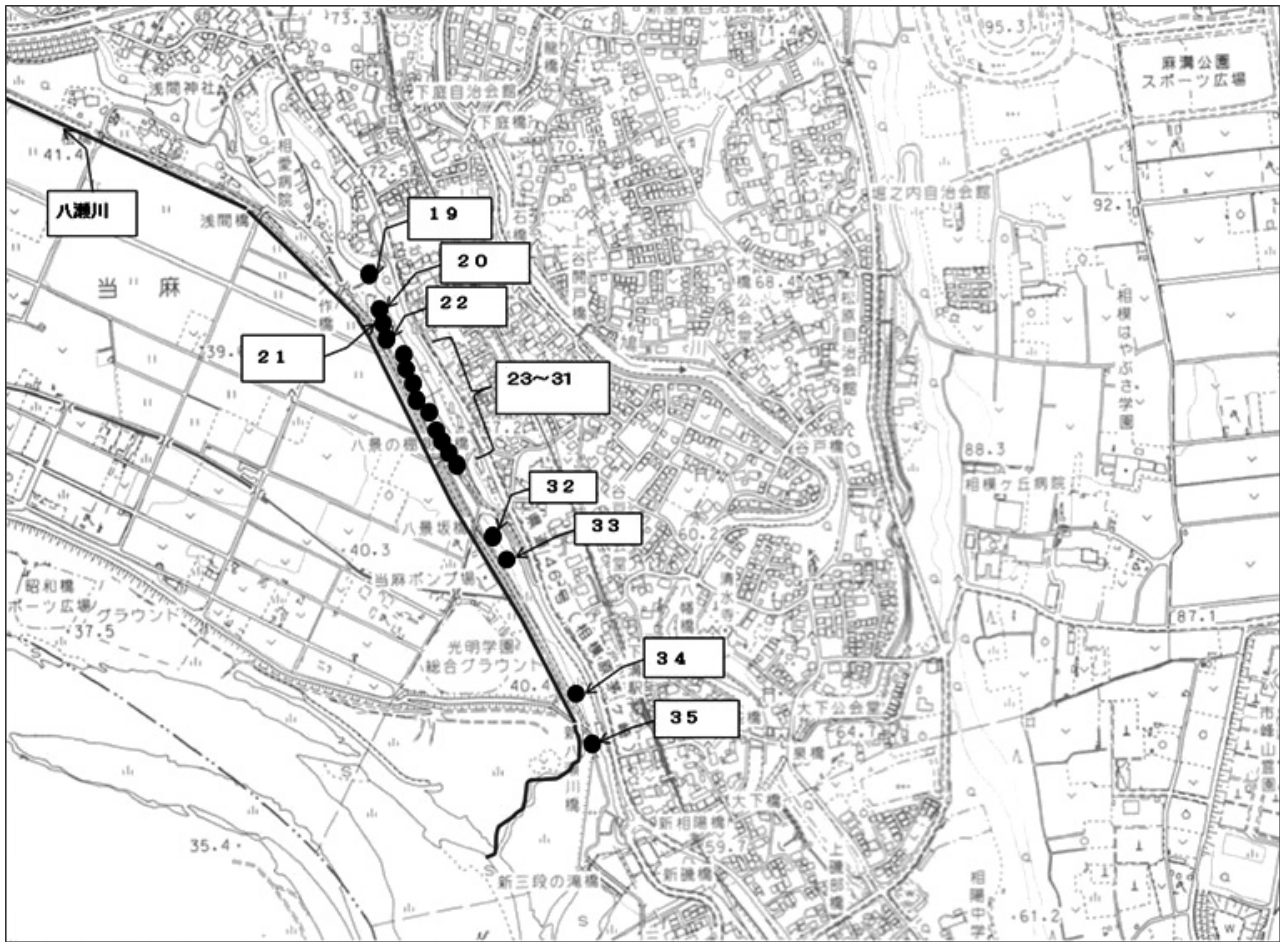


図5. 八瀬川水系ワサビ田跡地位置図ー3 (下流)



写真2. 田所春義氏所有のワサビ鋤簾



写真3. 田所春義氏所有のワサビゴテ

田所春義氏がワサビ鋤簾（写真2）とワサビゴテ（写真3）を保有していた（相模原市立博物館に寄贈済）また、湧水量の増加のため、水源近くに横穴を掘ってあった。主にクレソンの栽培をしていた。

田所春義氏からの聞き取り内容は以下のとおりである。

- ・ワサビ田の栽培は父の後を継いで昭和51年から昭和60年位まで行い、その後は家庭菜園のように1.2m × 3.5m くらいの大きさに現在まで栽培している。栽培のワサビは高水温に適する品種である。
- ・収穫したワサビの販売は青梅から買い付けにきた。八王子まで売りに行ったこともある。

②田所氏宅ワサビ田跡（No2）

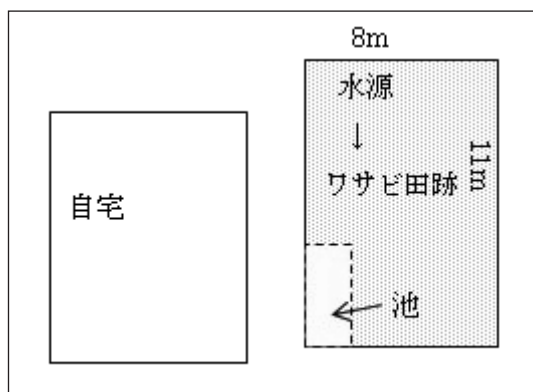


図7. 田所氏宅ワサビ田跡略図

ワサビの栽培は田所勝次氏が平成元年頃まで行っていた。現在はクレソンの栽培を行っている、また一部を池にして鯉を飼っている。その排水路は現在、

暗渠となっている。



写真4. 田所氏のワサビ田跡

③飯田電子下流ワサビ田跡（No5）

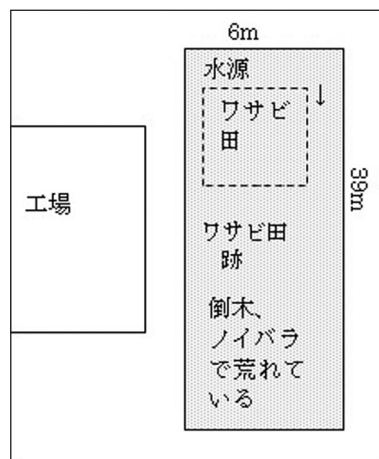


図8. 飯田電子下流ワサビ田跡略図



写真5. 飯田電子下流のワサビ田跡

ワサビの栽培は田所勝次氏が平成元年頃まで行っていた。平成2年に田名公民館行事で開催したワサビ田教室（相模原市田名公民館、1990）によりワサビ栽培が実施され、このワサビ田教室は数年で中止されたが、ワサビ栽培は現在も継続しているようである。このワサビ田教室の講師は田所勝次氏や田所春義氏が担当した。

④東急建設下ワサビ田跡 (No8)

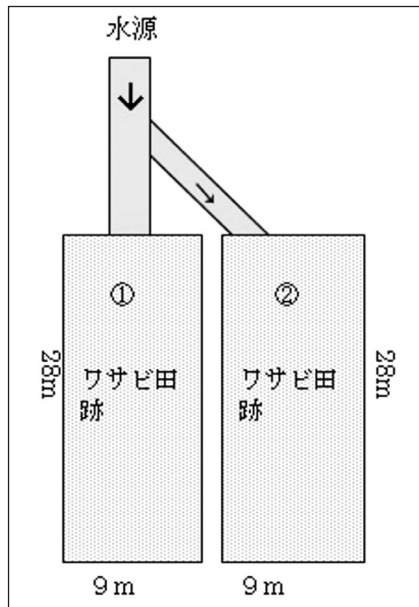


図9. 東急建設下ワサビ田跡略図



写真6. 東急建設下のワサビ田跡

熊沢フヨ子氏からの聞き取り内容は以下のとおりである。

- ・ワサビ田の栽培は、この地に曾おじいさんが愛川角田から来たのでその頃（明治35年）から始めて昭和40年頃まで行っていた。栽培は熊沢フヨ子氏が昭和35年にお嫁に来た頃はお姑さんがやっていたがすぐに亡くなり、その後は熊沢フヨ子氏が昭和40年頃まで栽培していた。

- ・栽培を止めた理由は上段に工場が出来て、水が汚れ、水量も減り、上段からの盗難もあったのが理由である。

- ・売った先はわさび漬け用に奥多摩の山城屋が買い付けに来た。最後の方は根と葉の除去を要求されるようになり面倒になった。価格は栽培最後の方で根と葉の分離なしでキロ400円位だった。

- ・このワサビは1年以上育てると腐ってしまう。

- ・当時は湧水量が多く、水の音で夜、眠れなかった。湧水量は最低でも現在の2～3倍はあった。この沢を大沢（おおざわ）と呼んでいる。

- ・住居もワサビ田跡の右側近くにあり、現在地には昭和37年に引っ越した。

⑤塩田霊園下ワサビ田跡 (No9)

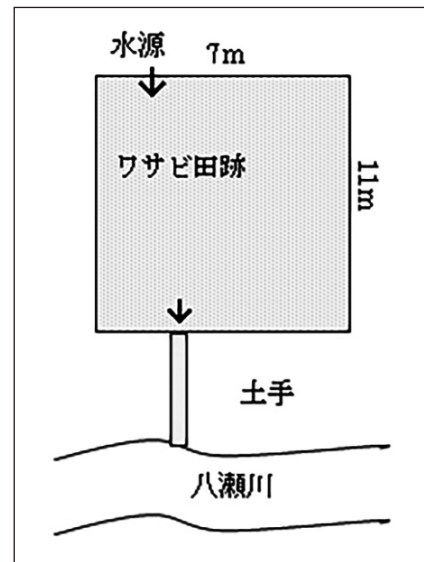


図10. 塩田霊園下ワサビ田跡略図



写真7. 塩田霊園下 (No9) のワサビ田跡



写真8. 塩田霊園下 (No9) のワサビ田跡の水源

白井英子氏からの聞き取り内容は以下のとおりである。

- ・ワサビ田の栽培は白井博忠氏が昭和49年頃まで行っていた。妻の白井英子氏も手伝った。
- ・当時は水量が多かった。ワサビ栽培を止めた後、上段に塩田霊園が造成され、更に水量は激減した。
- ・ワサビは奥多摩の山城屋に買ってもらった。
- ・ワサビ栽培を止めた理由は上段に工場が出来て、水量が減ったためである。

⑥ガン沢ワサビ田跡 (No12)



写真9. ガン沢①ワサビ田跡



写真10. ガン沢②ワサビ田跡

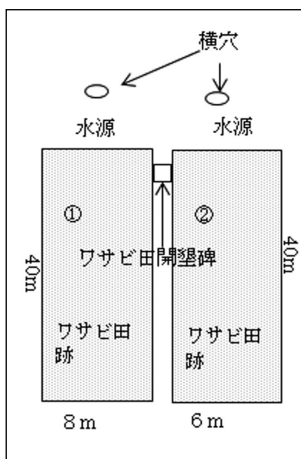


図11. ガン沢ワサビ田跡略図



写真11. ワサビ田開墾記念碑

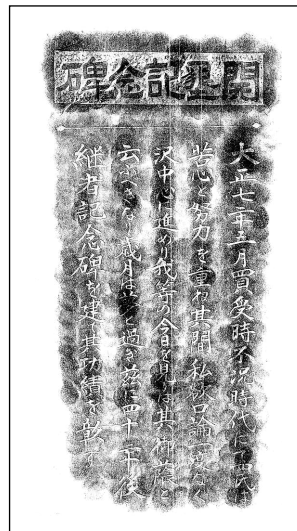


写真12. 開墾記念碑拓本

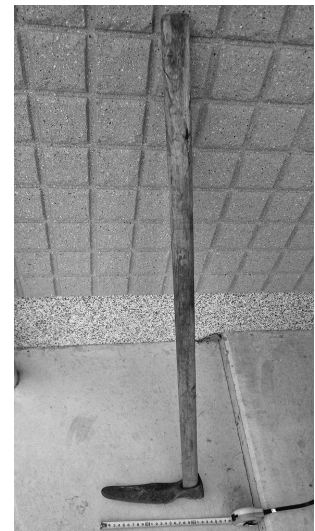


写真13. 遠藤貞夫氏所有のワサビ鋤



写真14. 遠藤貞夫氏所有のワサビ鋤 (拡大)

このワサビ田の跡地には栽培当時のワサビが、わずかに残っていた。ここから流れ出た湧水は天満宮裏の水路から当麻市場地区の道路脇の水路を経て、おまちの滝から八瀬川に注いでいる。

写真11.12のワサビ田開墾記念碑（高さ80cm、幅42cm、厚さ9cm）を昭和32年3月に建立している。文面は「大正七年五月買受時不況時代にて四氏は苦心と努力を重ね其間私欲口論一度なく沢中心に進めり我今日を見るは其御陰と云うべきなり歳月は夢と過ぎ茲に四十二年後継者記念碑を建て其功績を彰す」、裏面に彫られている開墾者4氏の氏名は遠藤富蔵、清水亀作、杉崎甲子助、石井政吉である。遠藤貞夫氏がワサビ鋤(写真13.14)を保有していた。(相模原市立博物館に寄贈済)

遠藤貞夫氏からの聞き取り内容は以下のとおりである。

・ワサビ田の栽培は明治から昭和60年頃まで行っていた、私で三代目。私は10年やった。30年位前

までは栽培していました。

・ワサビ栽培の場所は笈退り（No13）とガン沢（No12）の2ヶ所です。ガン沢は天満宮裏の国道バイパス手前の沢である。栽培は3名（遠藤貞夫、石井正治、杉崎隆茂）で行っていた。

・栽培を止めた理由はワサビの値段が下がってしまったから、この辺りは伊豆地方と違って水温が高く、太いものが出来ないので、ワサビ漬けの原料に使われていた。ワサビの根の本体部分は伊豆等のワサビと異なり小ぶりであるので葉、茎もワサビ漬けに使う。最初はそのまま出荷できたが根と葉の分離を要求されるようになり手間がかかるようになった。それからガン沢の上段に山を崩してドライブイン（桜井運輸）が作られたために水源が細くなってしまった、ワサビは水が命であるが段々良い物が出来なくなってしまった。それまでは湧水が今の倍以上は出ていた。山は水を持っているので春は木が水分を吸うが、葉が出揃った梅雨になればワサビ田に多く流れ出る。笈退りの方も上段に家が建って雨水が道路に流れる様になり水量が減ってきた。そのために簡易水道の水量も少なくなって県営水道に切り替えた。

・主に納めていたところは奥多摩の専門問屋である。
・年間の作業は3月末から5月までである。収穫して子株を取ってから枯れ葉やゴミを取り除く。泥があると育たないのでワサビ鍬で上流に掻上げる。沢ガニは小さいものは除いてバケツに2杯も3杯も採った、それから鋤簾で更に上流に掻いた所に水を流して泥を流した。それから20センチ間隔で小手を使ってワサビの子株を植え付ける。そしてそれを1年後に収穫した。農家にとっては良い収入源で親父の時は半年食えたが、私のときには1ヶ月しか食えなくなっていた。単価がどんどん下がっていった。それで酪農を始めた。他の2軒は養蚕をやったり、サラリーマンになった。

・ワサビの種類も栽培法も昔ながらである。自己流と思う、水温は18度であった。

・水量の減少は下水道設置や県営水道の3メートルの導水管の設置も大きく影響している。

・必要水量は特に数字的なものはないが水の流れが見える程度は必要である。

⑦笈退りワサビ田跡（No13）

図12のワサビ田跡①、②は少し上段にあるため、湧水が少なく、ワサビ田は濡れている程度であり、

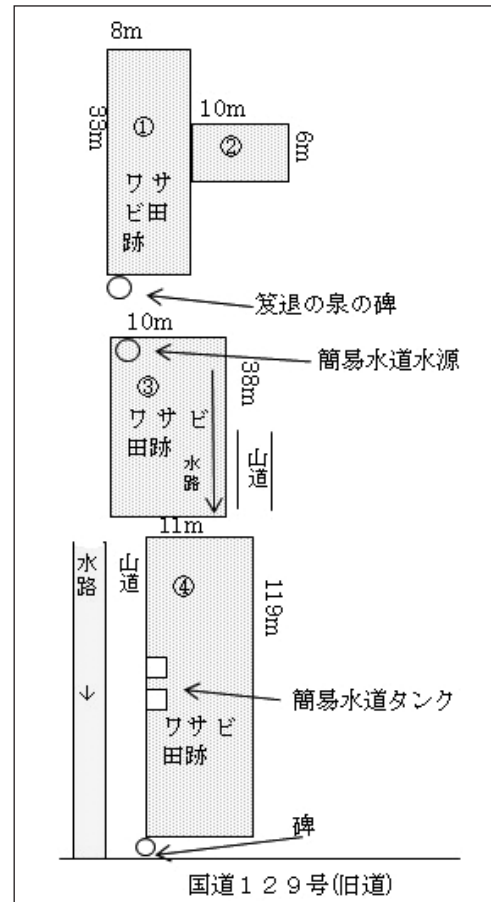


図12. 笈退りワサビ田跡略図



写真15. 笈退りワサビ田跡③



写真16. 一遍上人 笈退りの泉の碑

昭和50年代に栽培を止めているのは湧水の減少が原因と思われる。ワサビ田跡③の水源からは湧水が比較的豊富で現在も簡易水道のタンクにパイプで供給している。また、湧水状況は適Bとしたが、脇を流れている湧水をワサビ田跡の中心に流せば最適Aになると思われる。この湧水はワサビ田跡③の脇を流れて、山道脇の水路を経て当麻市場地区の道路脇の水路に流れている。ガン沢ワサビ田跡(No12)と同様に遠藤貞夫氏らが栽培を行っており、ワサビ田跡①、②、③とも借用して栽培していた。

⑧当麻山公園 No2 ワサビ田跡 (No15)

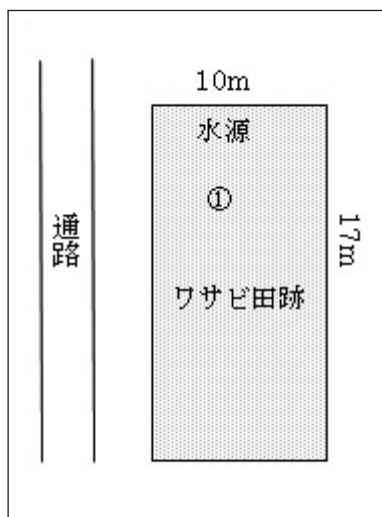


図13. 当麻山公園 No 2 ワサビ田跡略図



写真17. 当麻山公園 NO 2 ワサビ田跡

清水貞代氏からの聞き取り内容は以下のとおりである。

- ・この下ワサビ田の栽培は私の祖母ハツが昭和30年頃まで行っていました。
- ・水は三島神社の湧水も足していた。止めた理由は上段に家ができた、三島神社の湧水が汚れたためである。
- ・買い付けは奥多摩の方からきた。

⑨瓢箪玉料亭上ワサビ田跡 (No16)

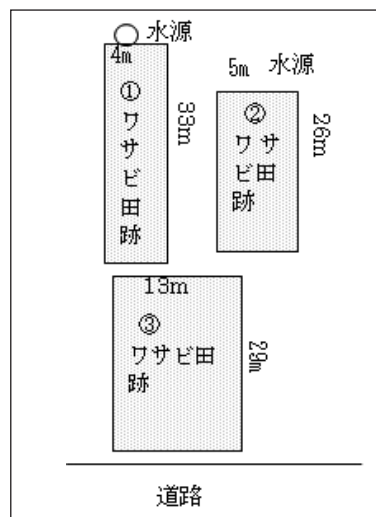


図14. 瓢箪玉料亭上ワサビ田跡略図



写真18. 料亭瓢箪玉上ワサビ田跡

図14のワサビ田跡①の水源からは豊富に湧水が湧いており、水源部は貯まりになって、不動様が祭ってある。この湧水は料亭瓢箪玉が鯉とニジマスの養殖池の水源として利用している。

岸田氏からの聞き取り内容は以下のとおりである。

- ・父の岸田利治が原当麻の有志7～8人で栽培を昭和19年頃まで行っていた。
- ・栽培を止めた理由は土が混ざり、ワサビが腐ったからである。

(5) ワサビ田跡地の透水性の測定調査 (簡易測定)

足立(1987)に「壘石式ワサビ田における適当な透水性は、わさびの植え付け後、数ヶ月経って作土が安定した時点で、1日当たり減水深で2500～3600mm以上である。これが2000mmを切ると成育は劣り、1000mm以下になると著しく悪くなる。透水性は図15のとおりシリンドインテグレートを用いて測定することができる」とあり、透水性によ

って、ワサビ田の表面を流れる水量が変わり、ワサビ田跡地の湧水状況の調査結果が変わるので測定を試みた。測定日は2016-3-4、測定場所はガン沢（No12-②）の中央付近である。

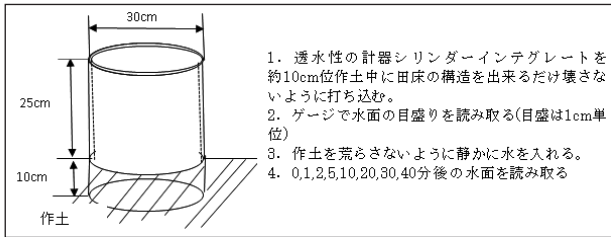


図15. 透水性の測定法。足立（1987）から引用。



写真19. 透水性試験

測定は計器シリンダーインテグレートの代わりに写真19のとおり直径20cmのゴミ容器（プラスチック製）の底をくり抜いて用いた。場所は3点行い、ワサビ田に容器を6cm埋め、30cmの高さまで水を投入して、30分経過後の減水高さを測定した。その値を1日24時間に換算した（48倍）。表4のとおり、1日当り透水性の平均は336cmとなった。最適な透水性2500～3600に比較して11%の結果となった。透水性の低下はすでに栽培を止めてから42年以上も耕作をしていないので当然の結果であった。透水性が悪いということはワサビ田を浸透せずに表面を流れる量が多くなるので、湧水状況の栽培最適A、適Bであっても実際の評価は下がる。

表4. 透水性試験結果

地点	経過時間(分)	減水高さ(mm)	1日当り透水性(mm)
A	30	5.0	240
B	30	10.0	480
C	30	6.0	288
平均	30	7.0	336

（6）静岡県湯ヶ島伊豆農業研究センターわさび科の訪問調査



写真20. ガン沢（No12）残存ワサビ

2016年1月14日に静岡県湯ヶ島伊豆農業研究センターわさび科を訪問して西島科長様からワサビ栽培方法などの話を伺った。

またガン沢（No12）に残っていた栽培当時のワサビの2株（写真20）を持参して品種の同定を依頼した。当株は伊豆から導入して栄養繁殖（株分け）により栽培していたものと思われる。しかし、DNA鑑定をすれば系統がわかるものの、外観による品種の同定は困難で、品種名は明らかに出来なかった。自生して残っている株は種で育っていた可能性があり、栄養繁殖でも退化現象を起こしている可能性が大きいとのことであった。栄養繁殖を繰り返すと退化現象（品質劣化）が起こりやすいので、現在では実生栽培が主流である。当研究センターわさび科は戦前からの歴史があり、品種改良や栽培技術の研究を行っていた。なお当2株は相模原市立博物館に植物標本として登録した。

5. 考察

（1）ワサビ田跡は35ヶ所、消滅した跡地も10ヶ所と多く、一時期盛んに栽培されていたことがうかがえた。農閑期の栽培で当時の貴重な現金収入になるので、段丘の崖からの湧水地のほとんどをワサビ田に開墾してワサビ栽培をしたと思われる。

今回調査した合計面積は7,526㎡であったが、麻溝尋常高等小学校（1937）に昭和6年頃の麻溝村の栽培面積は概算3町歩（約30,000㎡）と記載されており、その面積の25%であった。（当時の麻溝村は現在の相模原市南区に相当し、八瀬川水系の中下流と道保川水系の中下流で栽培をしているが道保川水系の栽培面積が大きい）

（2）湧水状況はワサビ栽培に最適と適で45.7%であっ

たが、透水性の測定調査結果を加えると、かなりの割合で栽培不適になると思われる。栽培当時はほとんどの場所が最適と適であったと考えられるので、湧水量の減少は大きいと考えられる。

- (3) ワサビ田跡内の植物は湿地性のものが多く、湧水量の多い場所ではセキショウが定着していた。湧水量の少ない場所ではアオキ、シュロ、ヤツデ等の樹木が育ってきており、落葉の堆積などにより更に乾燥が進み、少しずつ樹林化が進行すると思われる。
- (4) 栽培を止めた理由は湧水量の減少が最も多く、湧水量の減少は昭和 40 年代からの都市化に伴うものであり、ワサビ田の水源に横穴を掘っていることから明らかである。このことは湧水状況の調査結果からも裏付けられる。また聞き取りから湧水量の減少はワサビ田のすぐ上段に宅地や工場が出来た影響も大きいと思われる (No8、9、12、13 のワサビ田跡地)。止めた理由の水質悪化も同様に都市化の影響である。
- (5) 価格の下落については栽培終了頃にはワサビ漬の原料としての販売であり、過去の溝ワサビの根茎販売に比べ価格面で不利であり、また伊豆、長野産が多く出回りだした事も大きいと思われる。栽培終了頃にワサビ漬の原料程度しか栽培出来なかった原因に栄養繁殖 (株分け) 栽培の繰り返しによる退化現象から根茎の大きい株が育たなかった可能性もあり、現在の伊豆地方のような栽培技術がなかったことも原因と思われる。

また、1937 年頃の地下水温は 15℃ 程度 (辻本芳郎, 1937) であったと思われるが、現在の水温は 17℃ ~ 18℃ 位であり、ワサビ栽培の最適水温は 12 度 ~ 13 度 (星谷, 1996) からしても水温上昇により品質の良いものを育てられなくなったことも一因と思われる。

ワサビ引取業者からの葉、根茎、根毛の分離要求については、伊豆、長野産が多く出回りだし、買い手市場になったことが背景にあると思われる。

- (6) 戦前に一世を風靡した溝ワサビの栽培は上記の (4)、(5) の複合的な要因により、衰退し、絶えたが、最も影響の大きいものは都市化による湧水量の減少である。ワサビ栽培が途絶えたのは都市化への時代の流れとも解釈ができる。

6. おわりに

今回、八瀬川水系のワサビ田跡地を調査したが、ほとんどの場所がヤブなどによりワサビ田跡地へのアプローチは困難であり、夏場 6 月 ~ 9 月の湧水量と植物調査が

出来なかった、またワサビ田跡地は荒れており、障害物が多くあり、面積測定は長方形として幅、長さを歩測で調査を行ったことなど、若干の正確性と調査不足は否めないが、ワサビ田跡地の全体像は明らかにすることが出来た。旧相模原市のワサビ田栽培は道保川水系 (下溝・古山) が発祥地であり、機会があれば、調査をしたい。

ワサビ田跡地の下流にはゲンジホタルやホトケドジョウが生息している場所もあり、旧相模原市内では貴重な自然を残しているの、大切にしていきたい。

聞き取りに協力していただいたわさび田栽培の関係者は、ほとんど 75 才以上の高齢者であり、当時を思い出して答えていただいたことは幸運であった。

調査に当り、ワサビ田栽培の関係者に幾度となく聞き取りに快く、ご協力していただいたこと、また静岡県湯ヶ島伊豆農業研究センターわさび科、西島卓也科長様、馬場富二夫上席研究員様にワサビ田栽培についての資料ご提供とご指導をしていただき、この紙面を借りて深謝する。

参考文献

- 麻溝尋常高等小学校, 1933. 横山崖下泉地々帯の山葵栽培. 相模原 麻溝尋常高等小学校, 53-71.
- 足立昭三, 1987. ワサビ栽培. 秀潤社, 199P.
- 柿沢高一, 1973. 座間清七翁と溝山葵 (ミゾワサビ). 郷土相模原 復刊第 4 号, 86-90.
- 相模原市立博物館, 1998. 三 古山のワサビ作り. 古山の生業と伝承, 相模原市立博物館, 59-64.
- 相模原市田名公民館, 1990. 館報田名 わかあゆ 1990 年 1 月 22 日, 10 月 1 日号, 相模原市田名公民館.
- 相模原市田名公民館, 1992. 館報田名 わかあゆ 1992 年 3 月 1 日号, 相模原市田名公民館.
- 相模原町役場, 1949. 広報相模原 第 29 号. 相模原町役場.
- 相武台歴史同好会, 2010. 第 35 回相模原市文化財展. 14-17
- 辻本芳郎, 1937. 相模野の地下水 (相模野研究その一). 陸水学雑誌, 7: 98-112.
- 星谷佳功, 1996. 新特産シリーズ ワサビ 栽培から加工・売り方まで, 農村漁村文化協会, 168P.